

WEEKLY

一宮

題字 PG 安野謙次



重文「陵王」面 真清田神社蔵

Rotary
一宮RC



The Rotary Club of Ichinomiya

●例会日 木曜日 ●例会場 一宮商工会議所 ●承認日 昭和24年12月31日

●事務局 ☎491-0858 一宮市栄4-6-8 一宮商工会議所ビル5階 電話(0586)24-1931

持続可能なインパクトを生み出そう

URL:<http://rc138.org>

E-Mail:rc138@lily.ocn.ne.jp

2026年7月16日

第3684回例会

プログラム

クラブアッセンブリー

前年度・事業決算報告

今年度事業計画報告

ロータリーソング「それでこそロータリー」

第3683回例会の記録

2026年7月9日(木)

会長挨拶

桑原英寿

今日は全長 6690km 世界最長の川であるナイル川を渡るアリの話をさせていただきます。アフリカのナイル川をアリが移動するそうです。一度に 3,000 匹も移動するといひます。アリは泳げないはずです。浮くことはできますが、やがては溺れてしまうでしょう。では、どうやって 3,000 匹の大群が川を移動するのでしょうか。3,000 匹のアリが、一つの大きなかたまりをつくります。黒いサッカーボールのようなかたまりです。そして、お互いに離れないようにしっかりつながります。そのまま川に浮くと三分の一は生き残れても、残りの三分の二、つまり 2,000 匹は、死んでしまひます。そこで、流されていく途中で、水面上のアリは次第に水中に入り、そのかわり水中にいたアリが水面に浮かびあがります。しばらくの間は水の中にいても大丈夫ですから、このように次々に交代しながら水面下にもぐったり、水面上に浮かんで息をしたりします。水面上に出ている 1,000 匹のアリのために、他の 2,000 匹は下にもぐって、その支えとなるのです。たつぷり息を吸い込んだアリは、次に自分たちがみんなの下になって、それまで下にいたアリが浮かび上がるように支えます。そのようにしながら流されていくうちに、どこかの岸に流れつき、そこでようやくアリのボールはくずれて、みんな歩き始めます。このようにして 3,000 匹のアリたちは、あの大きな川をほとんど犠牲を出さずに移動してしまうのです。もしも、3,000 匹のアリたちが、みんな自分だけ樂をしようとして、いつも水面上に出ようとするならば、2,000 匹のアリが死に、次いで残りの三分の二のアリが死に、ついには全滅してしまうでしょう。お互いに支え合い行きましよう。

次回の予定

23 日 例会変更 納涼夜間例会

30 日 休会 定款第7条第1節(f)

8/6 青少年交換学生帰国報告

会 長 桑原英寿 会長エレクト 鈴木洋志
副 会 長 則竹伸也 副 幹 事 二ノ宮道彦
幹 事 吉山佐人規 会報委員長 豊島晋一

新 会 員 紹 介



氏 名 小 柴 陽 一 君
職業分類 商 業 銀 行
勤 務 先 株式会社社名古屋銀行
役 職 名 一宮ブロック長兼一宮支店長
生年月日 昭 和 4 7 年 7 月 2 0 日
紹 介 者 豊 島 俊 明 君



氏 名 飛 山 健 一 君
職業分類 商 業 銀 行
勤 務 先 株式会社十六銀行 一宮支店
役 職 名 支店長兼尾張ブロック長
生年月日 昭 和 4 8 年 9 月 2 4 日
紹 介 者 豊 島 俊 明 君

委員会報告

ニコボックス

森 大介

☆ 加藤 亘君

本日の例会に講師として、カナダ政府大阪通商事務所の上席商務官古川孝司様をお招きさせて頂いた喜びで。古川様、宜しくお願い致します。

☆ 野村章夫君

本日、ALSOK尾張支社長の高橋和彦さんをご紹介出来た喜びで。

☆ 高橋和彦君

歴史と伝統ある一宮ロータリークラブに入会させていただきました。誠にありがとうございます。初めての事ばかりですが、皆様どうぞ宜しくお願い致します。

☆ 桑原英寿君 吉山佐人規君

本日、新しい仲間としてALSOK株式会社尾張支社長高橋和彦さんをお迎えした喜びで。また、講師としてカナダ政府大阪通商事務所上席商務官 古川孝司様をお迎えした喜びで。一昨日7日に修文学院高等学校インターアクトクラブ例会に出席させていただいた喜びで。関係者の皆様には本年度もお世話になりますが、よろしくお願い致します。日々会員の皆様のお力添えに感謝申し上げます。本日もどうぞよろしくお願い致します。

出席報告

現在の会員数

107名

本日の出席数

62名

前々回の出席率

100%

***** プログラム *****

卓話

古川孝司氏

(カナダ政府大阪通商事務所 上席商務官)

テーマ「カナダ:美しく多文化な国」



本日は、「カナダ:美しく多文化な国」というテーマのもと、カナダという国の基本的な姿と、日本との関係について、外交・通商の観点も交えながらご紹介させていただきます。

まず、カナダの国としての特徴について取り上げます。カナダは世界で2番目に面積が大きい国で、日本の約27倍の広さを持ち、約4000万人が暮らしています。人口の多くは米国国境付近に集中しており、地域ごとに異なる気候や文化が存在します。ロッキー山脈や広大な森林、数多くの湖など、豊かな自然環境はカナダの象徴であり、観光資源としてだけでなく、農業やエネルギー、林業といった経済活動の基盤にもなっています。また四季が明確で、秋の紅葉、冬の厳しい寒さとそれを楽しむ文化、夏の快適な気候など、自然と共に生きるライフスタイルが国民の価値観を形づくっています。

次に、カナダの都市と経済について説明します。カナダは自然の国というイメージが強いですが、主要都市も大きく発展しています。トロントは金融・ビジネスの中心、モントリオールは文化と研究、バンクーバーはアジアへの玄関口として、それぞれ重要な役割を担っています。これらの都市には世界中から人材が集まり、国際ビジネスやイノベーションが活発に行われています。

続いて、日本とカナダの関係について紹介します。両国の外交関係は1929年に始まり、約100年にわたり安定した友好関係を築いてきています。民主主義や法の支配といった共通の価値観を背景に、政治・経済・安全保障・人的交流など幅広い分野で協力が進んでいます。特に近年は、「自由で開かれたインド太平洋」構想やTPP(CPTPP)を通じた連携が重要であり、両国は国際秩序の維持と経済成長において重要なパートナーとなっています。

経済関係について、貿易と投資の両面から説明します。カナダから日本へはエネルギー資源や鉱物、農産物などが輸出され、日本からは自動車や機械などが輸出されています。また、日本はカナダにとって主要な投資国の一つであり、相互補完的な関係が構築されています。特に農産食品分野では、小麦やカナダ産大豆、牛肉・豚肉、水産物、メープルシロップなど、多様な産品が日本に供給されており、日常生活にも密接に関わっています。

さらに、カナダ社会の大きな特徴である多文化主義について取り上げます。カナダは1971年に世界で初めて多文化主義を国家政策として採用し、移民を積極的に受け入れてきました。英語とフランス語の二つの公用語に加え、さまざまな言語と文化が共存している点が特徴であります。この多様性が社会の活力となっており、食文化にも反映されています。特定の「カナダ料理」というよりも、多文化の料

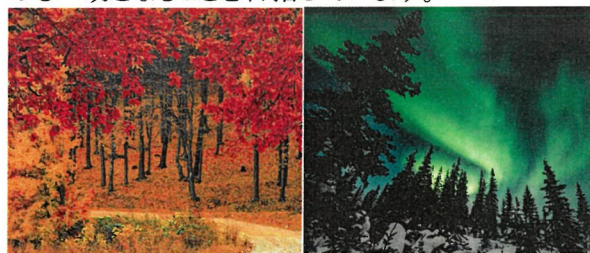
理を楽しむこと自体がカナダの食文化であるといえます。その歴史的背景として、移民の歩みについてですが、ヨーロッパからの移民に始まり、その後はアジアや南米など世界各地から人々が移り住み、現在も多くの移民が社会と経済を支えています。また、日本とのつながりとして、和歌山県三尾からの移民の歴史を紹介し、地域レベルでも長い交流の積み重ねがあることを示しています。

加えて、近年の交流の象徴的な事例として、大阪・関西万博におけるカナダ館の取り組みを紹介します。展示物の寄贈などを通じて、万博後も友好関係が地域社会に引き継がれています。

最後に、カナダで学ぶ意義についてです。カナダは教育の質の高さや多様性、安全性といった点から留学先として高い評価を受けており、若い世代にとって国際的な視野を広げる重要な機会を提供しています。

以上を通じて、カナダが多様性を尊重し、対話と協力を重視する国であること、そして日本との関係が多層的で将来性に富んでいること、国境を越えた友情と理解こそが、より良い社会をつくる力になります。

本発表がカナダをより身近に感じ、国際理解を深める一助となることを目指しています。



7/2 川松昌市君 入会式



7/9 高橋和彦君 入会式



7/10 青少年派遣学生 喜多桜彩さんチェコより帰国